

佳作

絵本の世界

入江 知子

「絵本って、薄いなあ。」

「絵本の絵って、かわいいなあ。」

幼少期に、絵本に触れることの少なかったわたしの絵本の印象です。

小学二年の頃、母から漫画雑誌を買ってもらい、漫画の世界にはまりました。そして、文の世界には触れることがなくなっていきました。

そんなわたしが絵本と深く関わることになった理由。双子を出産したことです。

一人っ子だったわたしは、子供達とどう接すればいいのかわかりませんでした。義母から音楽の

鳴る絵本をもらいました。それを子供達は喜んだので、本屋さんで絵本コーナーを覗くようになりました。

最初に子供達に買ってあげた絵本は「ぐりとぐら」です。二人で協力してできあがったケーキのおいしそうな絵に、子供達と喜びました。それから、我が家に絵本が増えていきました。

子供達も大きくなり、双子サークルの役員となったわたし。年一回のイベントで、催し物をやることになりました。子供達の興味をひきつけるにはどうしたらいいだろうと考えました。家にある絵本を見つけて、

「よし。読みきかせを試みよう。」

初めて数十人の子供達の前での読みきかせに緊張したものの、子供達が絵本にぐいっと引き込まれている顔を

びつくりしている顔、笑っている顔を見て、わたしも楽しくなりました。

それから、読みきかせの世界にはまったわたしは、双子達の通う小学校の読みきかせボランティアに参加するようになりました。学校で読みきかせをする前日は、家で子供達に読みきかせたり、図書館に行ったりと、この絵本の世界を子供達共々楽しんでいました。

月日は流れ、主人の転勤で引っ越ししました。小学校を転校した子供達。

「友達、できるかなあ。」

わたしも子供達も不安です。まずは、図書館へ通うことが日課になりました。そこで、目についたのが「だいじょうぶ だいじょうぶ」です。

読んで、とても気持ちが楽になりました。焦っ

ていてもできる時はできる、できない時はできない。そして、だいじょうぶ。その時は無理でも、いずれだいじょうぶになるという気持ちに不安もなくなりました。

子供達は友達もできて、わたしもママ友ができました。

「だいじょうぶ、だいじょうぶ。」

やることが重なった時、イライラした時もこの言葉で乗り越えます。

絵本の世界には、自分のことを考えさせてくれるものもあるんだと実感しました。

これから絵本の世界を覗いていきたいと思えます。